

2025年1月15日

## 「先達山を注視する会」

### 設立趣意書

代表 松谷 基和

「先達山を注視する会」（略称「先注会」）は、目下、吾妻山麓の先達山で行われているメガソーラー建設工事に対する憤りと疑念を共有し、この工事の背景と今後の展開を住民の目で「注視」することを目的とした任意団体です。

先達山に限らず、現在、福島県全域で行われているメガソーラー開発は、その大半が地元住民の意向を十分に踏まえず、地元と縁の遠い外部事業者によって一方的に進められています。これらの事業者は、行政から開発認可を得たことを盾に強引に作業を進めていますが、その認可申請の内容、審議過程には不透明かつ不可解な部分が多く、詳しく精査する余地があります。また、認可された事業であっても、その後の開発行為が不適切であれば、認可が取消しとなる場合もあります。

「注視」とは、座して眺めることではありません。行動を伴います。本会では、以下の「注視」活動を通じて、先達山問題の背景や構造を理解し、住民の意識と知識を高めたうえで、次に取るべき行動を考えていきます。

#### 1. 調査と情報公開

本会では、本工事の事業者、開発許可者である行政、工事計画の進捗状況など、先達山のメガソーラー建設に関するあらゆる情報を自らの力で調査し、住民に公開し、共有します。

#### 2. 行政/政治責任者、事業者との対話

本会は、上記の1の調査で得た情報に基づき、行政・政治責任者、そして事業者との対話を試み、地元住民のために行動するように働きかけを行います。

#### 3. 他地域との連携

本会は、先達山問題に集中して上記1、2の活動を行いつつも、そこで得た情報・知見を、他の地域で同様の課題に直面している人々/団体とも積極的に分かち合い、「注視」ネットワークを広げていきます。

#### 4. 関連問題への「注視」

先達山の「注視」活動を通じて得た経験や知見を、将来的には地域住民の生活、教育、環境など他の問題の「注視」にも応用し、福島の直面する課題の全体像を俯瞰できるよう視野を広げていきます。

以上